

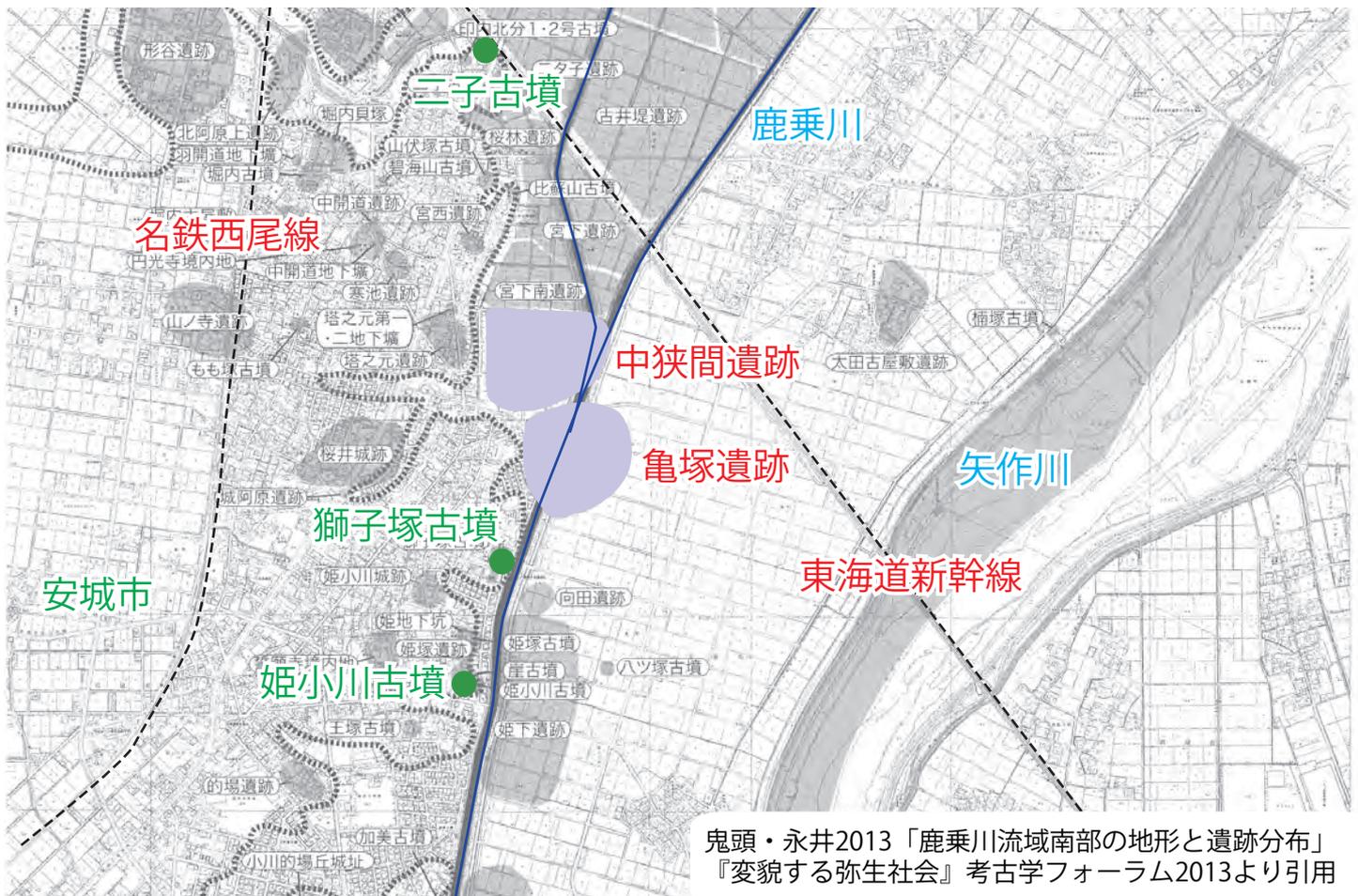
# 鹿乗川流域遺跡群 発掘調査成果報告会

令和6(2024)年2月3日  
於 安城市東町公民館

令和5(2023)年度、愛知県埋蔵文化財センターは、株式会社イビソクの支援を受け、鹿乗川流域遺跡群のうち、寄島遺跡から中狭間遺跡まで南北約1.4kmの範囲で調査を行いました。今回の報告会では、その中でも調査面積の広がった亀塚遺跡・中狭間遺跡の成果について報告いたします。

亀塚遺跡では、弥生時代後期から古墳時代前期の間に流れていた河川の跡を調査しました。そこからは大量の土器のほか、木製品も豊富に出土しており、中にはこれまでにない精巧な加工のされた<sup>たてぐし</sup>竪櫛もありました。川の北側では、住居と思われる<sup>たてあなじょういこう</sup>竪穴状遺構のほか、お墓である<sup>ほうけいしゅうこうぼ</sup>方形周溝墓が2基見つかかり、その1基は弥生時代末期のもので、50メートルを超える大規模なものでした。

中狭間遺跡では、亀塚遺跡と同じく方形周溝墓が4基見つかったほか、同じくお墓である<sup>どきかんぼ</sup>土器棺墓が4基確認され、弥生時代中期後葉の土器や弥生時代末期の土器<sup>やまじゃわん</sup>などが出土しています。その他にも、平安時代～鎌倉時代の山茶碗の破片なども出土しました。



# 亀塚遺跡令和5年度調査 主要遺構図



弥生時代後期の方形周溝墓



弥生時代後期～末期の竪穴状遺構



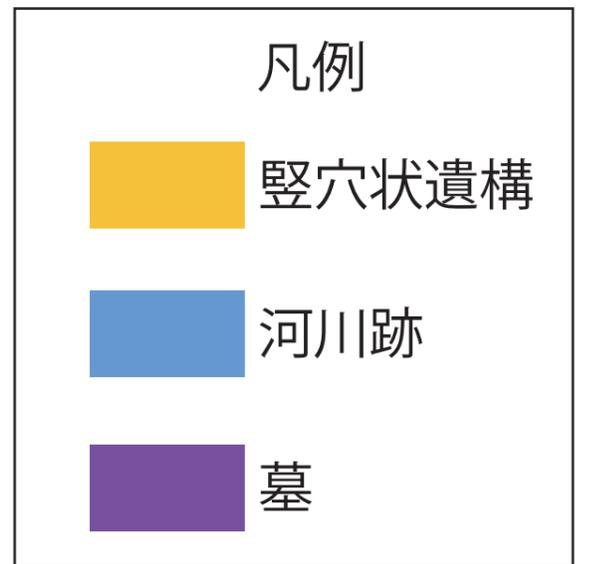
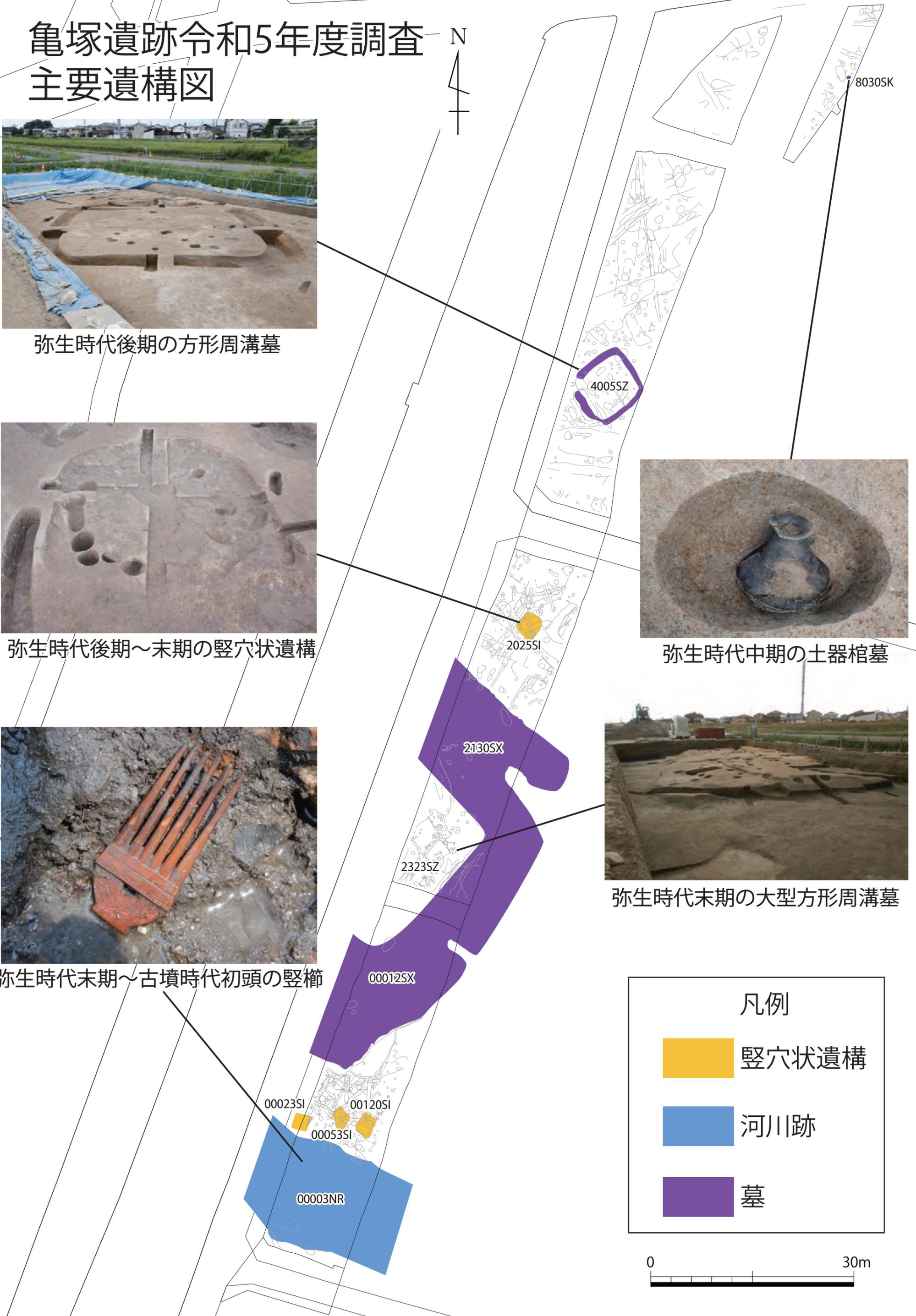
弥生時代末期～古墳時代初頭の竪櫛



弥生時代中期の土器棺墓



弥生時代末期の大型方形周溝墓



# 中狭間遺跡成果報告会資料



0110SK



129SZ



130SZ



131SZ (22A区)



031SZ (23A区)



142SK



0141SZ



0150SZ



0030SZ



0050SZ



0040SZ



0060SZ

